

平成27年4月23日
本部事務局

琵琶湖・淀川流域対策に係る研究会（第5回）の開催結果及び今後の予定について

1 第5回研究会開催結果

1	開催日時	平成27年4月20日(月) 13:30～15:25
2	場 所	御所西 京都平安ホテル1階 「平安」
3	出席者	中川博次委員(座長)、中村正久委員(副座長)、石田裕子委員、角哲也委員、多々納裕一委員、津野洋委員、中川一委員、嘉田由紀子顧問
4	議 事	流域の抱える利水上の課題、課題解決に関する論点

(1) 流域の抱える利水上の課題

- 平成26年10月実施の流域市町村への課題調査の結果のうち利水に関する部分、および琵琶湖・淀川流域の利水に関する現状について、本部事務局より説明がなされた。

(2) 課題解決に関する論点

- 第1回～第4回までの研究会での議論などを踏まえて作成した、治水・防災上の課題解決の方向性、および流域対策のあり方に関する論点について、本部事務局より説明がなされた。

(3) 審議

- 気候変動等に伴うリスクを考慮した水源確保のあり方など利水上の課題について、以下のような意見が出された。
 - 30～50年程度の視野を持つならば、人口や産業の変化、気候変動等の影響を考慮することが必要。利水は地域の活動と密接に関係している。
 - 各地域で水道水源がどれだけ多重化されているかをマップ化しておけば、対策を検討するきっかけとなる。この機会に、水源の多重化や備蓄などにより広域的に融通できる仕組みなどを考えておくことよい。
 - 琵琶湖だけに頼るのではなく、下水の再利用、井戸水の利用などで多重化することを考えることも重要である。
- 次回研究会では、環境等の課題についても議論を進めることとし、これまでに整理した治水・防災上の課題に利水・環境等の論点も統合し、流域全体の課題として取りまとめていくことが確認された。
- 各課題の一般論的な解決の方向性に加えて、行政間の壁を乗り越えて連携し流域全体を管理していくため、関西広域連合がどのような役割を果たし得るのかについて検討しておくことが非常に重要であり、次回以降、検討を進めることが確認された。

2 今後の予定

(1) 検討の進め方

- ① 利水・環境等の課題を抽出・整理する
- ② 各課題の相互関係を分析し、全体課題を取りまとめる
- ③ ベストプラクティス集を取りまとめる
- ④ 流域対策のあり方、統合的流域管理の可能性を検討する

(2) 研究会提言の取りまとめに当たって

関西広域連合が設置する研究会の意義を踏まえ、次の視点により検討する。

- ① 全体を俯瞰し、広域的に検討する
- ② 流域の将来を見据え、長期的な視点で検討する
- ③ 多様な行政分野を横断的に検討する

(3) スケジュール（予定）

① 利水・環境等の課題の整理【第二段階】

第5回	主として「利水」に係る課題の抽出・整理	平成27年4月
第6回	主として「環境」に係る課題の抽出・整理	平成27年6月
第7回	各課題の相互関係の分析	平成27年8月
第8回	全体課題の取りまとめ（治水・利水・環境等）	平成27年10月

② 広域的な流域管理シンポジウム(仮称)の開催

平成27年10月

琵琶湖・淀川流域が抱える治水・防災、利水、環境など、トレードオフ関係にある様々な課題について情報共有を図るとともに、統合的な流域管理の可能性を検討するため、「広域的な流域管理シンポジウム」(仮称)を開催し、広域的な流域管理のあり方について議論を深める。

③ 琵琶湖・淀川流域対策に係る市町村との意見交換会の開催

平成27年12月

④ 流域対策のあり方、統合的流域管理の可能性の検討【第三段階】

第9回	総合的な視点での課題解決方策の検討	平成28年1月
第10回	研究会提言 中間取りまとめ	平成28年3月
第11回	研究会提言 取りまとめ	平成28年5月